

認定看護師 + CERTIFIED NURSE

認定看護師とは

みなさん、「認定看護師」ってご存知ですか？日本の看護師は国家試験合格後、看護師として働き始める頃、ほとんどの看護師が日本看護協会や日本精神科看護協会に入会し会員となります。この二つの協会には、それぞれ資格制度があつて、その中の一つに認定看護師があります。

では、認定看護師は他の看護師と何が違うのでしょうか。認定看護師は特定の分野において熟練した看護技術と知識を持ち、看護や教育の現場で看護全体の質の向上を図ることを目的としています。専門分野の例をあげますと、日本看護協会には、救急看護、がん性疼痛看護、不妊症看護、嚥下障害看護、認知症看護などなど……17分野あります。

当センターには、摂食・嚥下障害看護の認定看護師が一人います。高齢化した入院患者さんのむせこみや誤嚥性肺炎の予防など、健

康の基本である食べることを専門的にお手伝いしています。

もう一方の精神科看護協会の認定看護師が7名います。こちらも、日本看護協会と同様に、10の専門分野に分かれています。しかし、精神的な症状や生活上の困りごとが現れる時には、多様な課題をいくつも抱えておられることが多いことから、認定看護師は、この重なり合う問題の解決を求められ、昨年から専門分野は廃止されています。

精神科認定看護師の7名は、かつての専門分野での活動を主としており、院内では疾患と看護についての講義をしたり、倫理の研修を担当しています。また、院外にも活動の幅を広げています。例えば、看護学校の授業や企業へ出前講座に出かけることもあります。また地域の家族会や支援センターに呼んでいただき、情報交換や、勉強会を行うこともあります。私たちがお手伝いさせていただきます。まずはご一報を下さい。



INFORMATION

平成28年8月25日
JAZZコンサートを当院交流プラザで開催しました。

地元の高校生によるバンド‘Free Hills Jazz Orchestra’の皆さんにお越しいただきました。今後も、交流プラザでの音楽イベントを開催する予定です。

楽しみにしていてくださいね。



平成28年11月22日
文化祭を開催しました。

各部署による出店や、様々な発表が行われました。医局による劇は12年目を迎え、今年も大好評で終了しました。



医局による劇(アリババと40人の盗賊)

平成28年12月10日
愛知県精神医療センター公開講座を開催しました。

当院 渕野真広医長が、「『リカバリー』～その概念と広がり～」というテーマで講演し、65名の県民の方にお越しいただきました。



愛知県精神医療センター ニュース

愛知県精神医療センター広報誌
2017.03 創刊号 Vol.01



ようこそ
愛知県精神医療センターへ。

CONTENTS

発刊のごあいさつ 院長 粉川進

[シリーズ] 教えて先生『統合失調症について』

認定看護師+CERTIFIED NURSE ……認定看護師とは

愛知県精神医療センターのロゴマークが決定しました

INFORMATION



統合失調症について

皆さんに一番知っていてもらいたいこと

はじめに

統合失調症は約100人に1人に発症し、国民病である糖尿病の患者さんの約3分の1の数の患者さんいる、よくある病気の一つです。当院で最も多くの患者さんが治療を受けている病気でもあります。

慢性の病気です

さてここからが、今回一番知っていてほしいことです。

統合失調症は慢性の病気です。では慢性の病気とはどういうものでしょうか？慢性の病気の代表的なものは、先程も出てきた糖尿病や高血圧です。慢性の病気の反対は急性の病気で、代表的なものは風邪や肺炎などの感染症があげられます。どこが違うのでしょうか？急性の病気は、一過性のものであり、病気が良くなれば基本的に治療はおしまいです。一方で慢性の病気は継続的な治療を必要とします。ただ慢性の病気はかかっていても自覚症状が無いことが多い、その為治療を中断してしまう人が多いのです。しかし「自覚症状が無い=病気が治っている」ではないので、治療を中断すると後でとんでもないこととなってしまいます。糖尿病なら、目が見えなくなってしまったり、腎臓が悪くなり透析が必要となってしまうなどの合併症を発症します。慢性の病気は継続的な治療が必要なのです。

統合失調症の治療を中断すると？

慢性の病気である統合失調症の治療を中断する



今号の
先生

高木 宏 医師

【最近好きな物】

漫 画 「宇宙兄弟」「ワンピース」
小 説 「家日和」「我が家の問題」奥田英朗
映 画 「マイ・インターン」
ド ラ マ 「逃げるは恥だが役に立つ」
音 楽 シベリウス交響曲第1番
食 物 うな丼（関東風）
好 き の 時 休日前日の夜

【嫌いな事】

詰まっているスケジュールや迫りくる締め切り

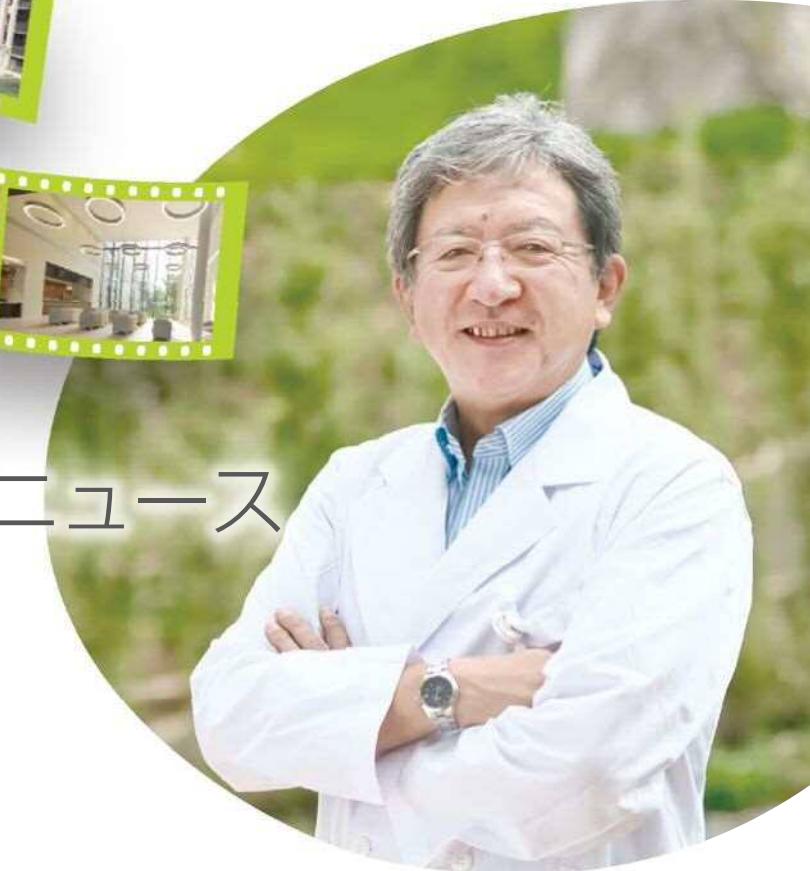
と、どうなるのでしょうか？まず再入院率、再発率が5倍に跳ね上がります。しかし入院してもまた元の生活に戻れるなら、それほど問題ではないかもしれません。一番大きな問題は、再発を繰り返す内、元の状態に戻るのに時間がかかるようになり、更には元の状態に戻らなくなってしまい、生活能力が落ち、更には、その人らしさが失われてしまうのです。

ただ過大な心配はしないでください。現在はとても良い薬があり、多くの方は早めに治療を開始し、継続的に治療を続けることが可能です。だからこそ、せっかく調子を取りもどした方が、治療を中断したり、薬の飲み忘れなどで再発して入院されると、私はとても残念で、悔しい思いで一杯になります。統合失調症が慢性の病気で、継続的な治療が必要であることを覚えておいて下さい。



愛知県 精神医療センターNEWS をお届けします。

愛知県精神医療センター
院長 粉川 進



発刊への想い

平成28年2月に、愛知県立城山病院

かつて愛知県立城山病院であったとき、「広報しろやま」という名の広報誌を年に2回のペースで発行していました。その「広報しろやま」は、平成20年1月発行の第12号をもって休刊し、以後9年の長きに渡って再刊されることなく、現在に至っています。何故第12号で休刊となってしまったのか、その理由はよくわかりません。

広報誌の編集と発行に熱心であった職員の移動、老朽化した施設の改築がなかなか実現しないことによる職員のモチベーションの低下、などがその原因であつたかもしれません。

広報誌も新しく生まれ変わる

さて過去の広報誌のことはさておき、このたび、新しい広報誌として「愛知県精神医療センターNEWS」を発刊し、年に2回ほどのペースで皆様にお届けすることになりました。



正面玄関



地域と病院をつなぐ交流プラザ



総合待合ホール

皆様とつながる、新たなコミュニケーションツール

新しい広報誌「愛知県精神医療センターNEWS」においては、当院の活動をつぶさに紹介していくながら、精神医学や精神医療についての情報提供をしていく予定です。この広報誌が、愛知県精神医療センターと、患者さんやそのご家族、地域の皆様、県民の皆様、愛知県の精神医療と福祉に携わる皆様との有効なコミュニケーションツールになるよう育んでいきたいと希望しております。

ら、すでに1年が経ちました。この間当センターのスタッフ一同は、慣れないう新しい施設の運用と、救急病棟や医療観察病棟などの新しい医療を進めることに必死になつて取り組んで参りました。こうして新病院の運営が軌道に乗り始めたこのときに、新しい広報誌を皆様にお届けできるようになつたことは、まさに時に時宜にかなつたことだと言えます。

愛知県精神医療センターのロゴマークが決定しました。

作品説明：

黄緑色の球は患者さん、黄色と水色の2本の輪は知恵、球と輪を下から包む青色の葉は病院職員の手を表現しています。病院職員が知恵と工夫を加えて、患者さんの回復をお手伝いする、という病院の姿勢を表現しています。

精神医療センターのロゴマークを、患者さんや職員等へ院内で募集を行った結果、12名の方から20点の応募がありました。その中から選ばれた最優秀作品をベースに作成されました。



愛知県精神医療センター
Aichi Psychiatric Medical Center